

平成25年3月27日

福祉保健局

## 『東京の子供と家庭』の結果(速報) ～平成24年度東京都福祉保健基礎調査～

平成24年度東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」における主な調査結果について、このたび速報としてまとめましたので、お知らせします。

### 働いている母親の割合、「共働き」である世帯の割合、共に5割を超えた

就労状況を見ると、母親の「働いている」割合は、前回調査(19年度)の48.3%から5.7ポイント増加し54.0%となった。また、「共働き」である世帯の割合も前回調査の46.1%から7.7ポイント増加し53.8%となった。

従業上の地位について見ると、母親の「正規の職員・従業員」の割合は、前回調査の30.9%から6.1ポイント増加し、37.0%となった。 【調査結果の概要P4～5】

### 育児休業制度を利用した割合は、父親・母親共に増加

育児休業制度を利用したことが「ある」割合は、前回調査と比べて父親は0.3ポイント増加し1.5%、母親は8.9ポイント増加し25.4%と父親・母親共に増加した。

また、育児休業を実際に取得した期間と自分が取りたいと思う期間に差があったと回答した母親にその理由を聞いたところ、最も割合が高かったのは、「希望の時期に保育所に入所できない(できなかった)から」(46.0%)であった。

【調査結果の概要P33～35】

### 「小児・母子医療体制の整備」は、充実していると思う人の割合が過半数に達している

都の子育て施策が充実しているか聞いたところ、「小児・母子医療体制の整備」について「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が58.6%と過半数に達した。一方で、「家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進」については、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は54.6%であった。 【調査結果の概要P47】

### 「養育費の取決めをしている」割合は約4割、「面会交流を行ったことがない」割合も4割であった

ひとり親に対して、離婚した相手と「養育費の取決めをしている」割合を聞いたところ、39.0%で約4割であった。また、養育費の取決めをしている人に、文書による取決めの割合を聞いたところ、73.7%で、14年度調査(65.1%)と比べて8.6ポイント増加した。

また、ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である人に、面会交流を実施しているか聞いたところ、「面会交流を行ったことがない」割合は40.6%であった。

【調査結果の概要P21～23】

※調査の概要は裏面

※調査結果の概要 別紙のとおり

問い合わせ先

福祉保健局総務部総務課 担当 松原、綱澤

(内線) 32-090、32-017 (直通) 03-5320-4209

## 調査結果の概要

○ 調査票①（世帯票）の結果・・・4,452世帯（集計対象世帯）の父母（養育者含む）8,234人と子供7,862人の状況

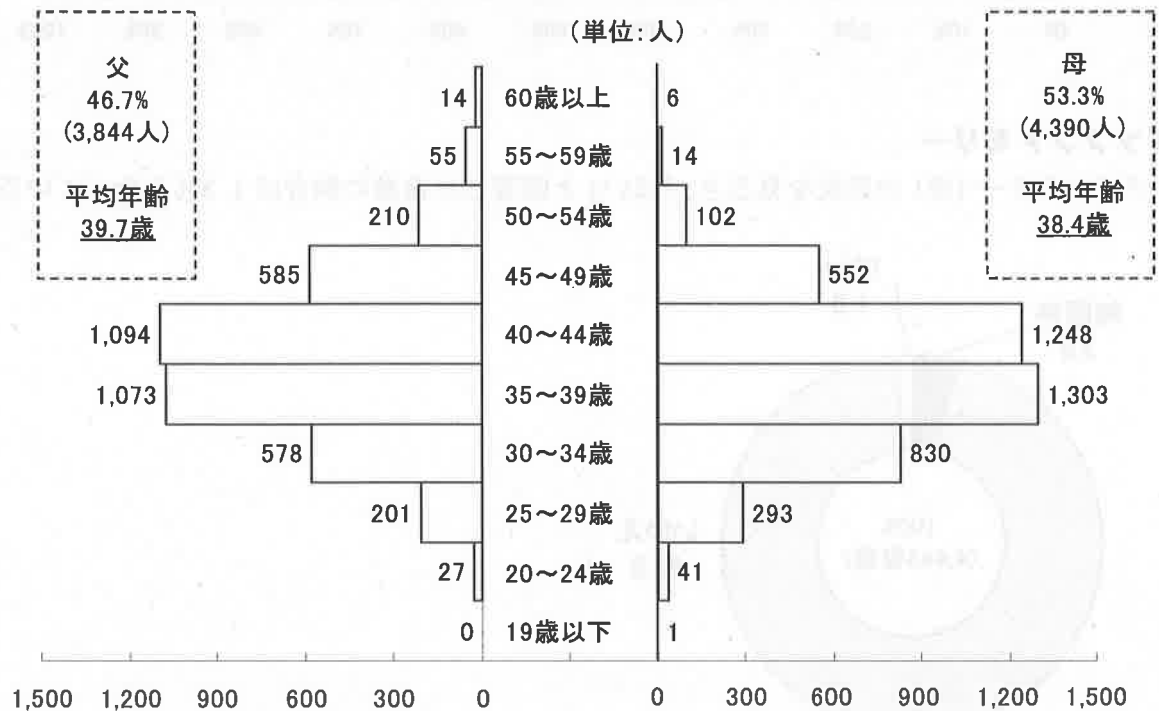
### 1 子育て世帯の状況

#### （1）世帯の状況

##### ① 父母の性・年齢階級

父母の人数を年齢階級別に見ると、父親は「40～44歳」が最も多く1,094人、母親は「35～39歳」が最も多く1,303人となっている。

父母の平均年齢は父親39.7歳、母親38.4歳である。

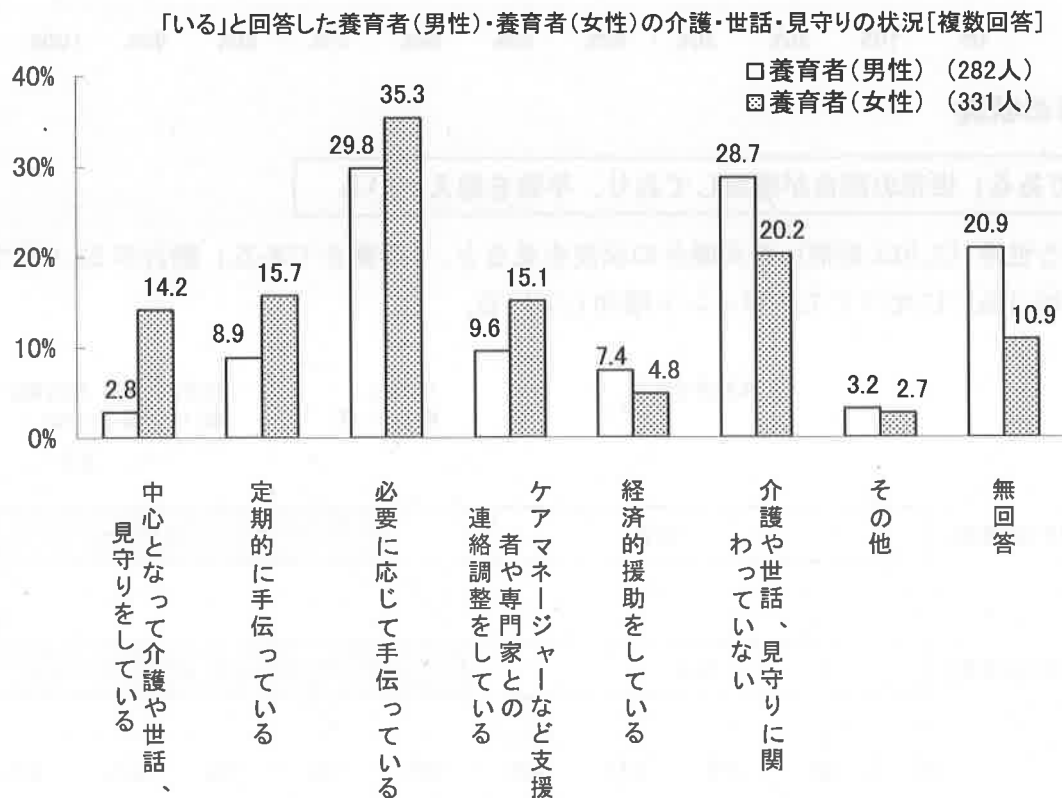
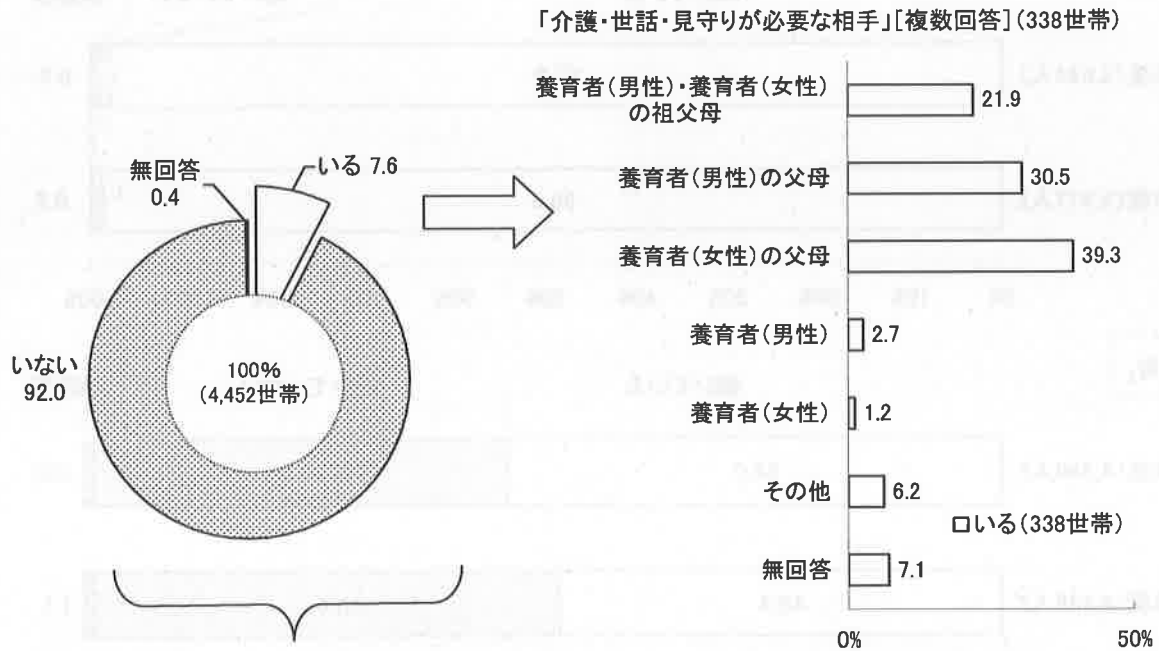


(注) 合計が8,234人にならないのは、父親の年齢無回答が7人いるためである。

#### ④ 介護・世話・見守りの有無及びその状況

介護・世話・見守り（※）の有無について聞いたところ、介護・世話・見守りが必要な人が「いる」と回答した世帯の割合は7.6%となっている。さらに養育者（男性）、養育者（女性）に対して、それぞれの程度介護・世話・見守りに関わっているか聞いたところ、養育者（女性）の「中心となって介護や世話、見守りをしている」割合が14.2%で、養育者（男性）（2.8%）よりも11.4ポイント高くなっている。

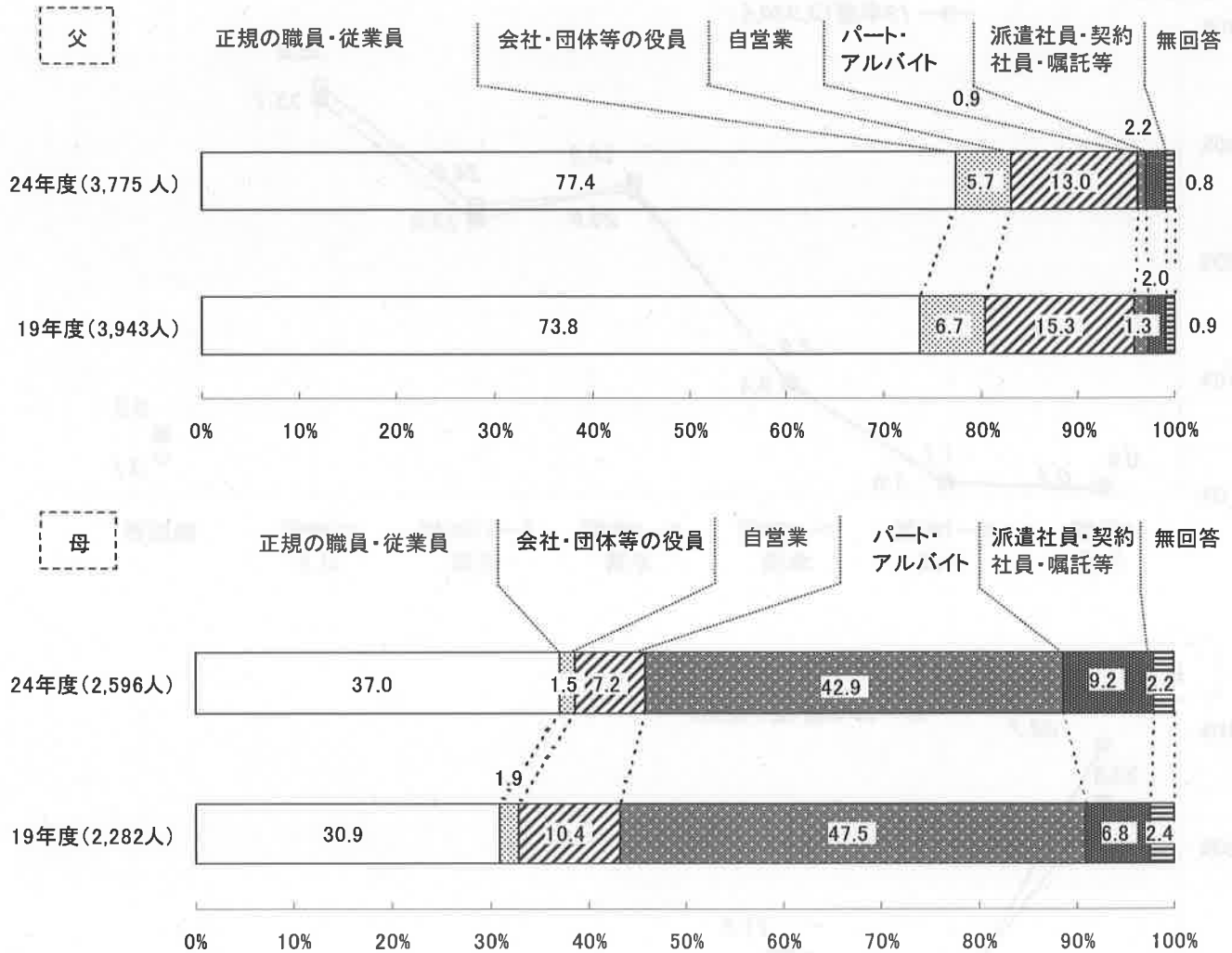
※ 直接的な介護だけではなく、経済的援助やケアマネージャーとの連絡調整など間接的な関わりも含む。



## ⑦ 従業上の地位

### 母親の「正規の職員・従業員」の割合が増加

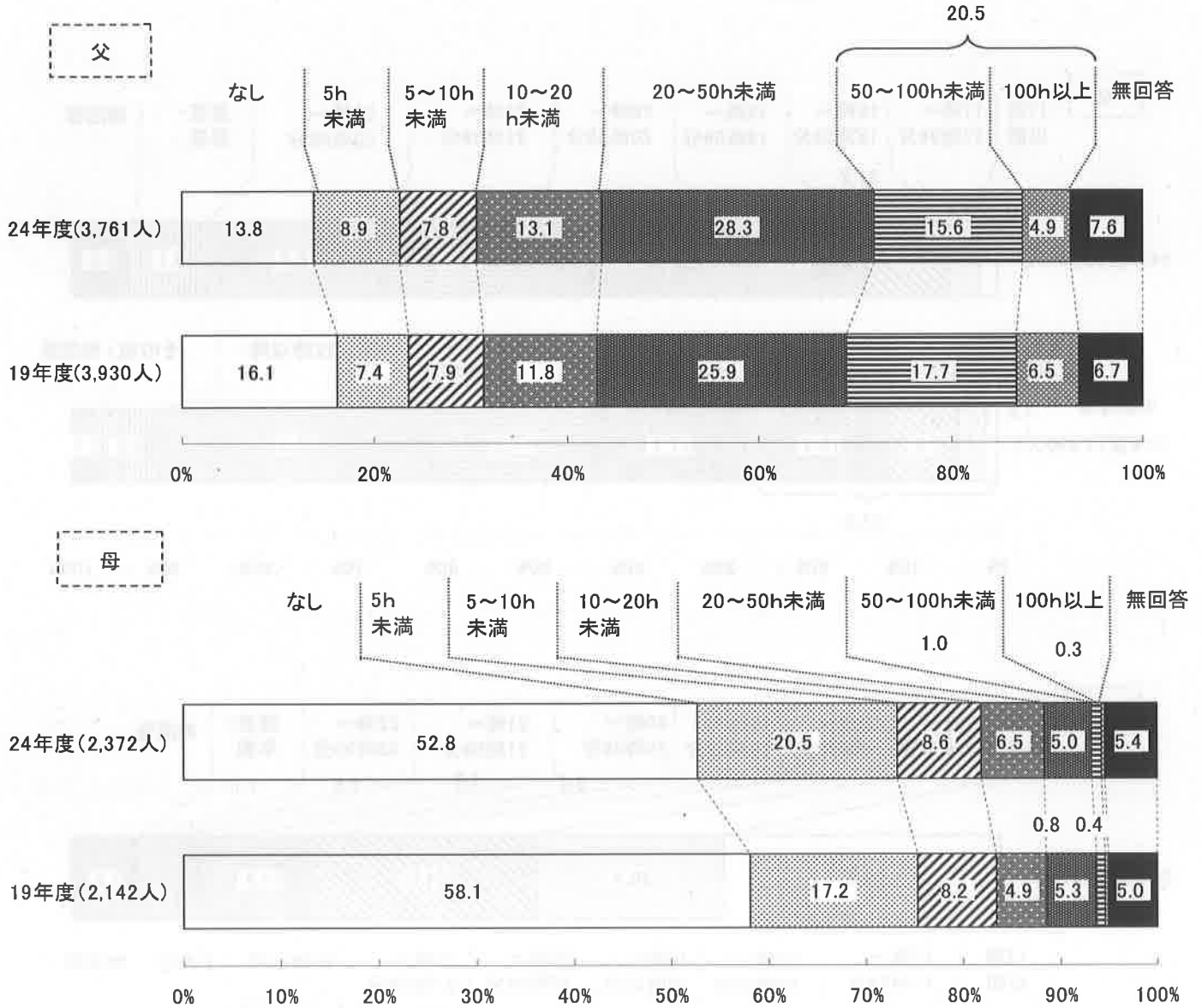
従業上の地位について見ると、父親は「正規の職員・従業員」の割合が77.4%で最も高くなっている。一方、母親は「パート・アルバイト」の割合が最も高く42.9%、次いで「正規の職員・従業員」の割合が37.0%で、19年度調査（30.9%）に比べて6.1ポイント増加している。



### ⑨ 1か月の残業時間

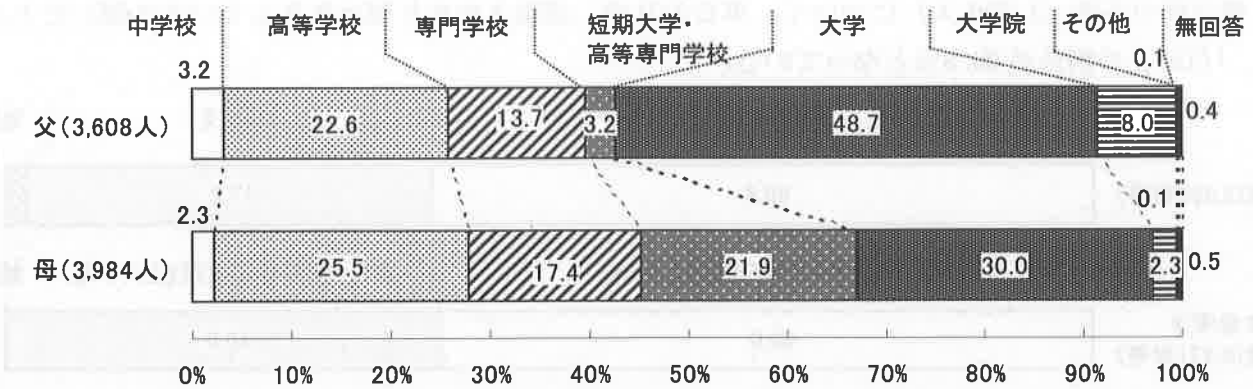
月の残業時間が「50時間以上」の父親は約5人に1人

1か月の残業時間について見ると、父親は「20～50時間未満」の割合が最も高く28.3%、「50時間以上」（「50～100時間未満」＋「100時間以上」）の割合も20.5%となっている。一方、母親は「残業なし」の割合が52.8%と半数を超えている。



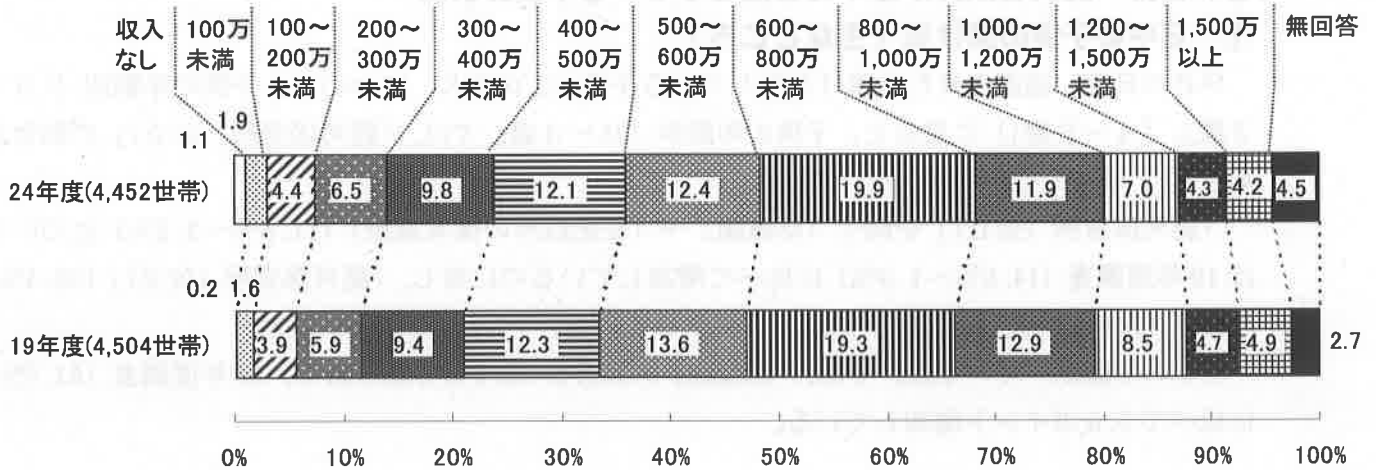
## (2) 父母の学歴

父母の最終卒業学校の状況を見ると、父母ともに「大学」の割合が最も高く、父親48.7%、母親30.0%となっている。

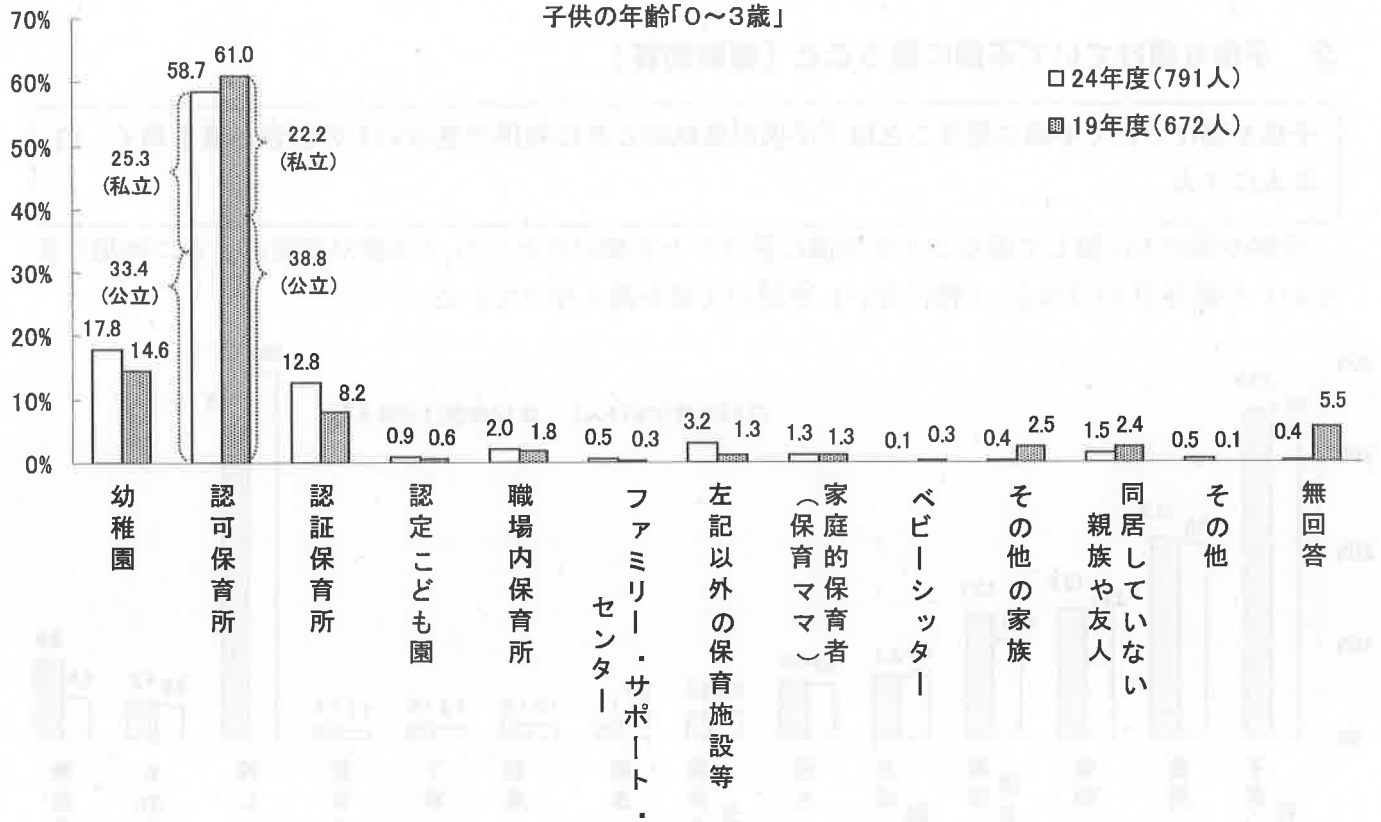


## (3) 世帯の年間収入

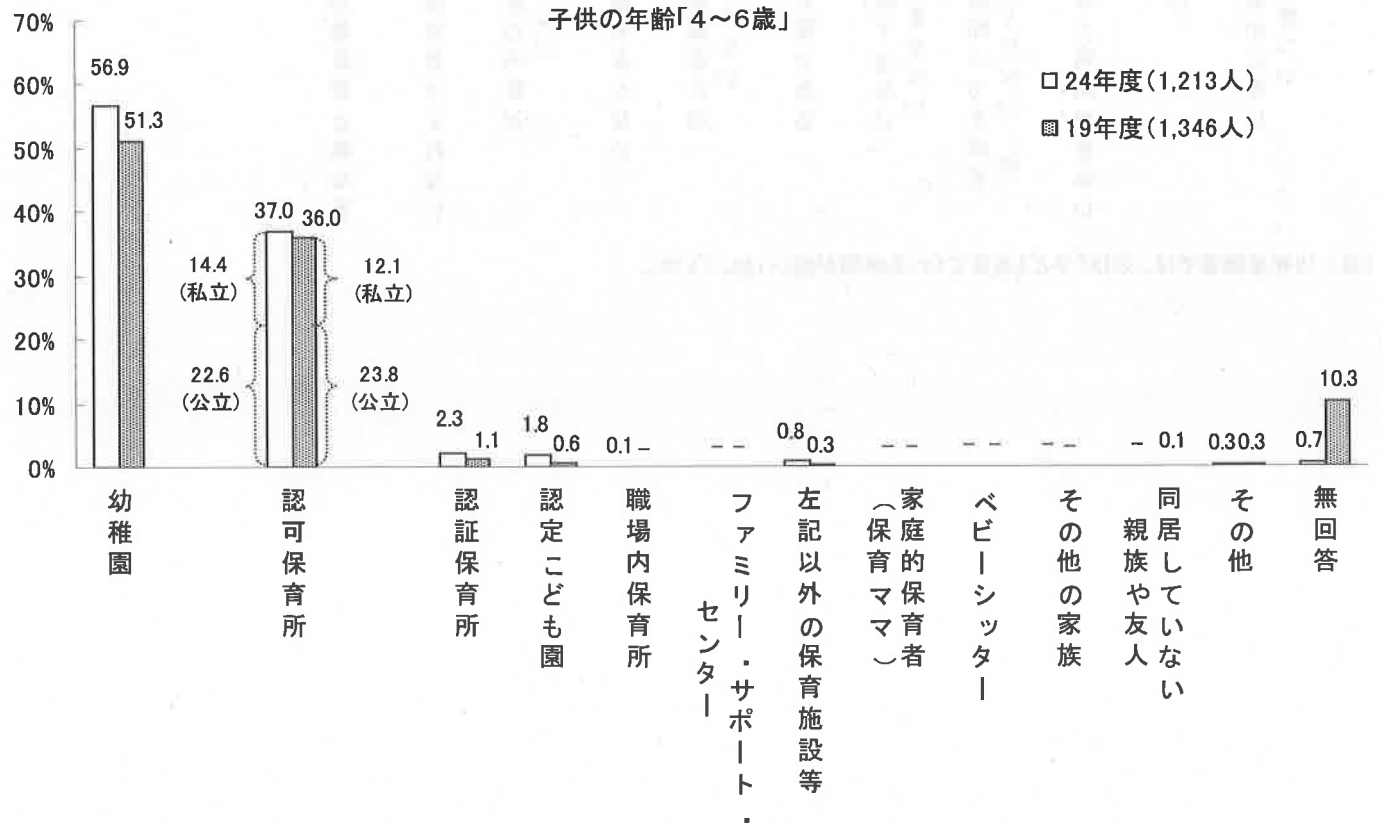
世帯の年間収入について見ると、「600～800万円未満」の割合が最も高く19.9%、次いで「500～600万円未満」(12.4%)、「400～500万円未満」(12.1%)となっている。



子供の年齢「0～3歳」



子供の年齢「4～6歳」

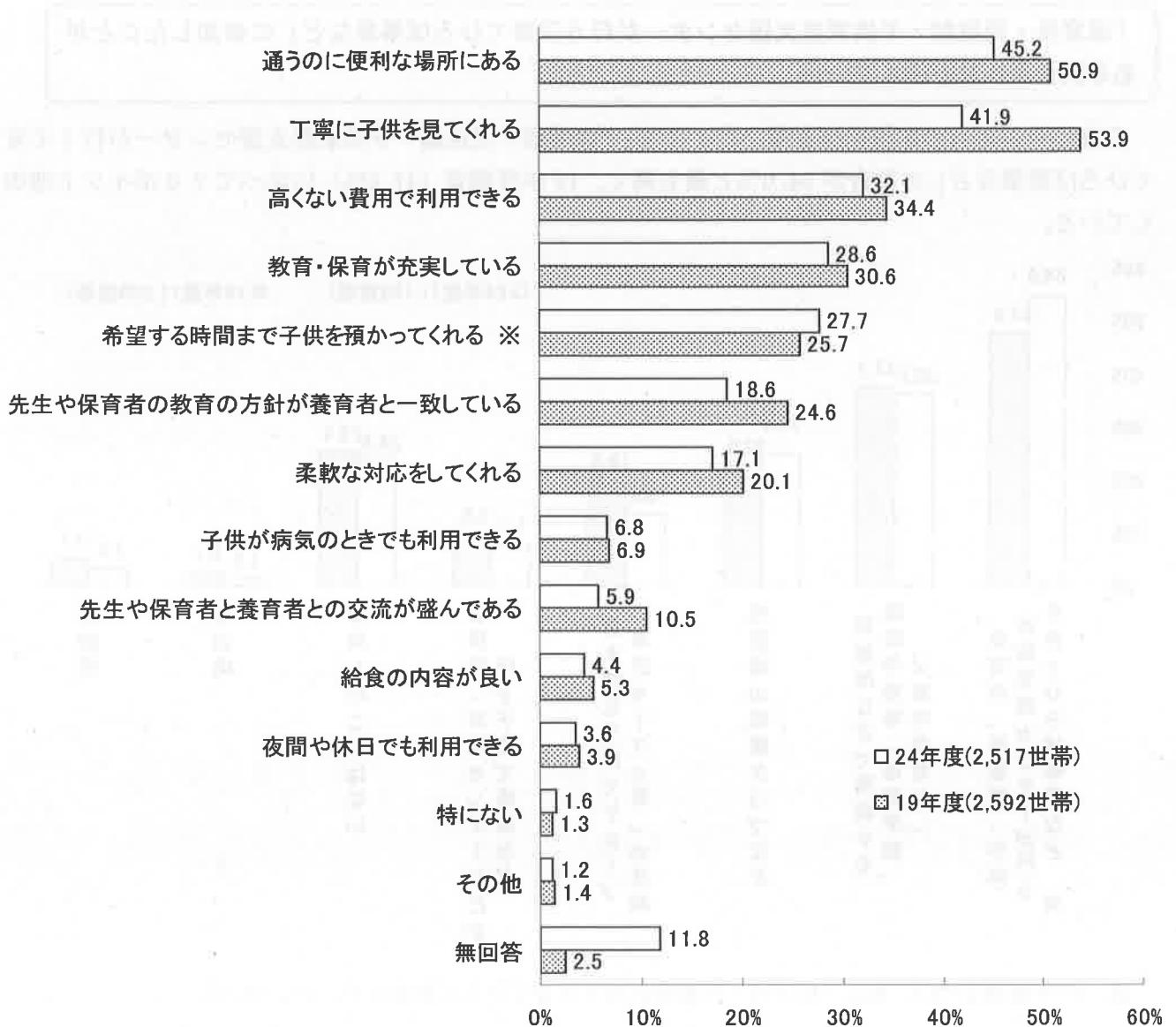


(注) 24年度の合計が2,008人(通園させたり預けたりしている就学前の子供人数)にならないのは、年齢不明の子供が4人いるためである。同様に、19年度の合計が2,021人(自分・配偶者以外が世話をしている就学前の子供人数)にならないのは、年齢不明の子供が3人いるためである。

### (3) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

子供の預け先を選ぶ際に重視することは「通うのに便利な場所にある」

子供の預け先を選ぶ際に重視することを聞いたところ、「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く45.2%、次いで「丁寧に子供を見てくれる」(41.9%)、「高くない費用で利用できる」(32.1%)となっている。



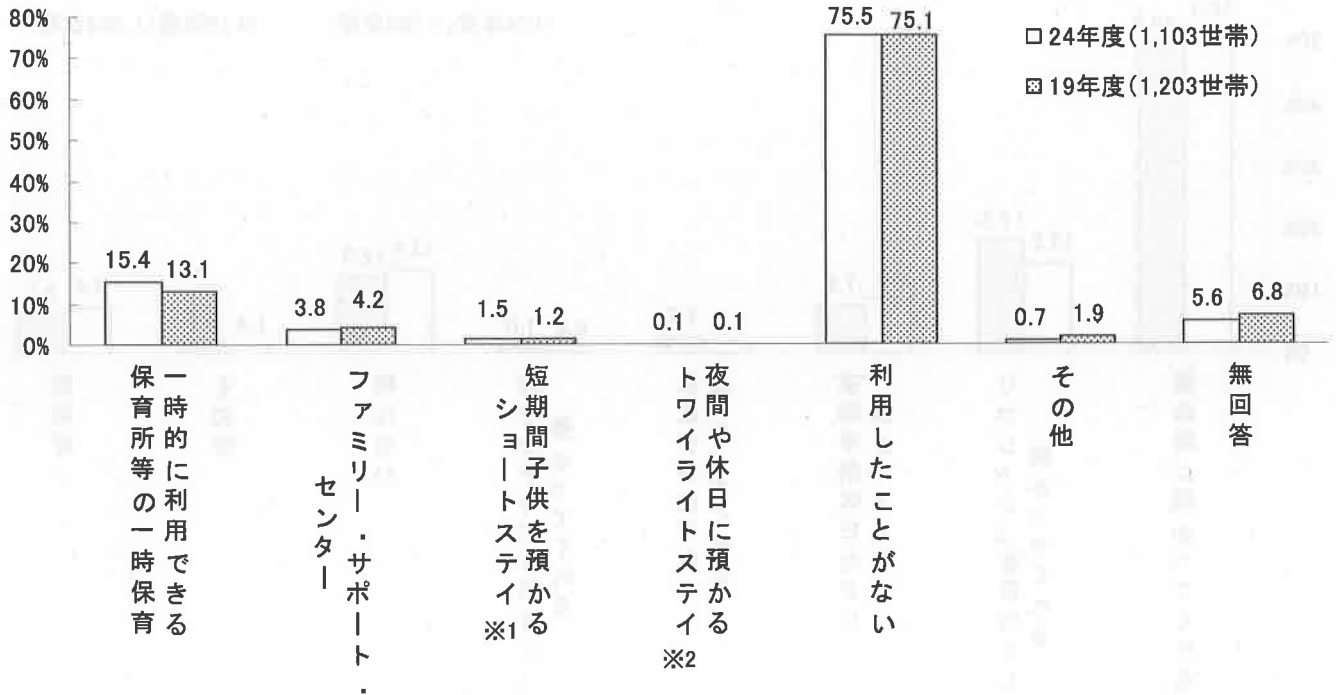
(注) 19年度調査では、※は「子どもを見てくれる時間が十分である」としていた。



## ② 一時的な子育てサービスの利用状況〔複数回答〕

一時的に利用したことがある子育てサービスについて聞いたところ、「一時的に利用できる保育所等の一時保育」の割合が15.4%と、19年度調査（13.1%）に比べて2.3ポイント増加している。

一方で、「利用したことがない」の割合が75.5%と最も高くなっている。

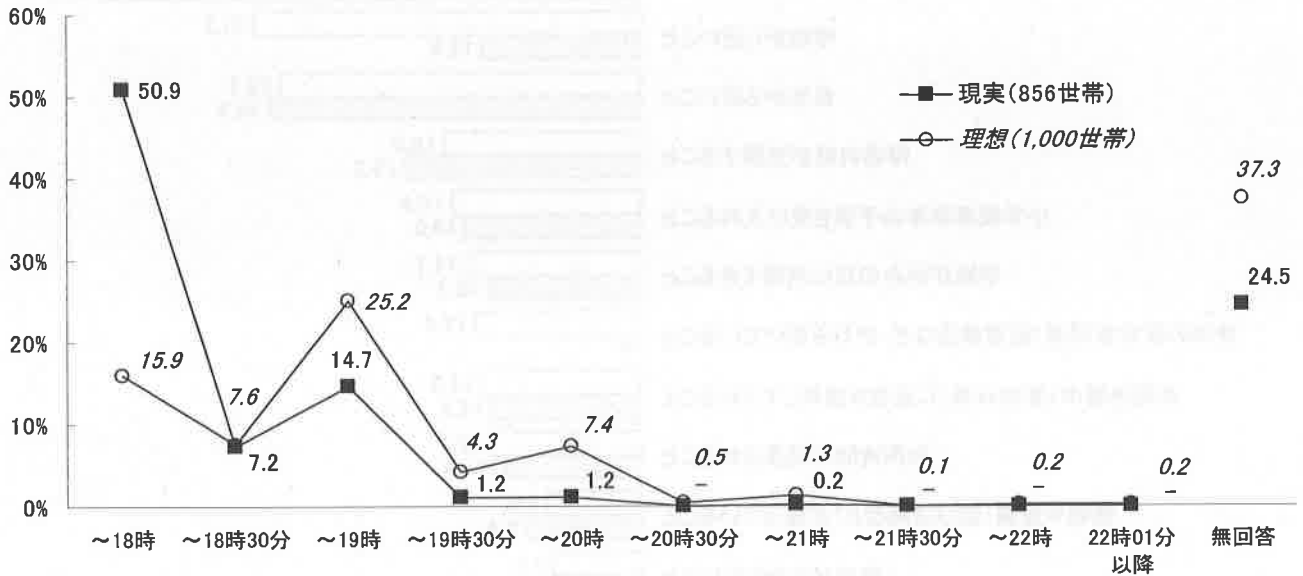


(注) 19年度調査では、※1は「児童養護施設等で、短期間子供を預かるショートステイ」、※2は「児童養護施設等で、夜間や休日に預かるトワイライトステイ」としていた。

## ② 学童クラブの終了時間—理想と現実

現実の終了時間は「～18時」の割合が最も高いのに対し、理想の終了時間は「18時30分超～19時」の割合が最も高い

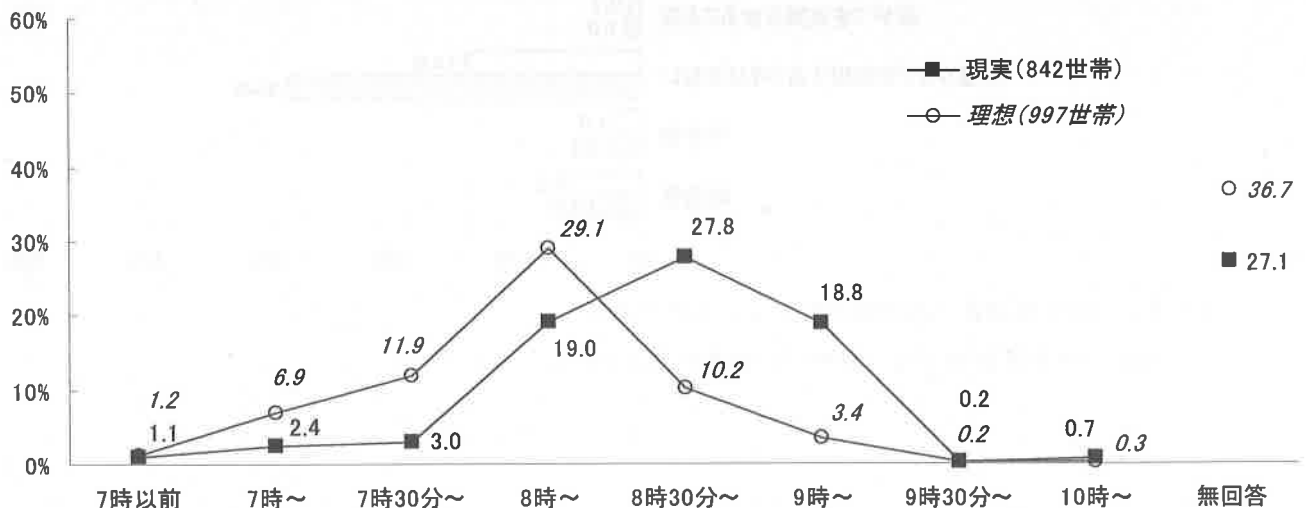
現在利用している学童クラブ、又は今後利用しようと思っている学童クラブが何時まで開いているか聞いたところ、「～18時」の割合が最も高く50.9%となっている。一方、何時まで開いてほしいか聞いたところ、「～19時」の割合が最も高く25.2%となっている。



(注) 総数は「学童クラブを利用するつもりはない」と回答した世帯を除いた数である。

## ③ 長期休暇時の学童クラブの開始時間—理想と現実

夏休みなどの長期休暇時に、現在利用している学童クラブ、又は今後利用しようと思っている学童クラブが何時から開いているか聞いたところ、「8時30分～」の割合が27.8%と最も高くなっている。一方、何時から開いてほしいか聞いたところ、「8時～」の割合が29.1%と最も高くなっている。

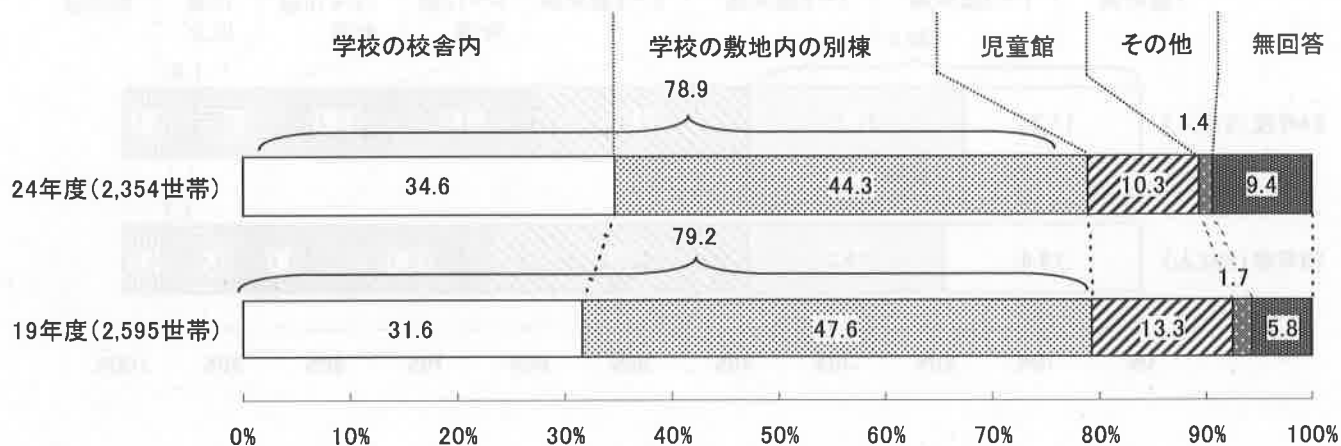


(注) 総数は「学童クラブを利用するつもりはない」と回答した世帯を除いた数である。

## ⑤ 学童クラブの希望設置場所

学童クラブの設置場所は「学校内」が望ましいと思う世帯が約8割

学童クラブはどこに設置されているのが望ましいか聞いたところ、「学校の敷地内の別棟」の割合が44.3%で最も高く、「学校の校舎内」(34.6%)と合わせると、「学校内」と回答した世帯が78.9%で約8割となっている。

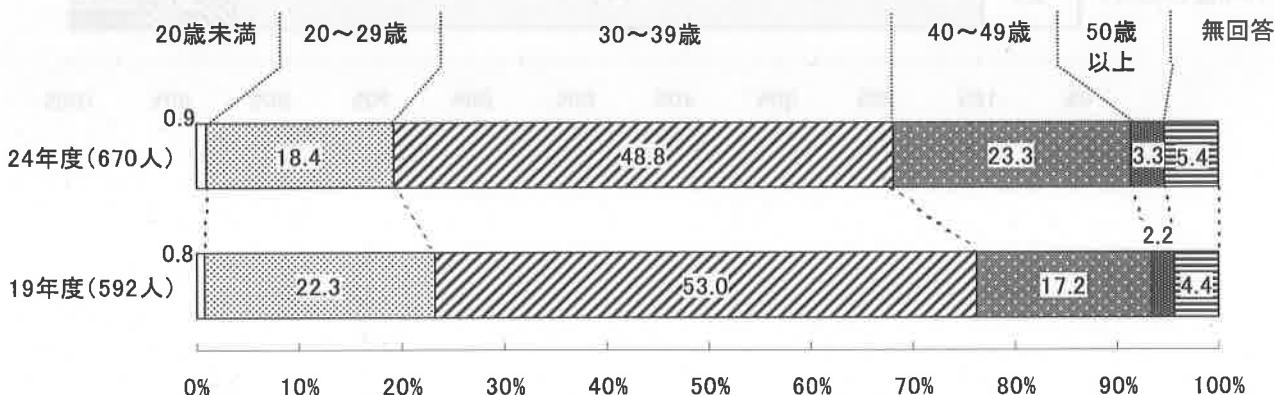


## 4 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

20歳未満の子供を養育するひとり親670人の状況について聞いた。

### (1) ひとり親になった当時の自分の年齢

ひとり親になった当時の年齢は、「30～39歳」の割合が最も高く48.8%、次いで「40～49歳」の割合が23.3%となっている。

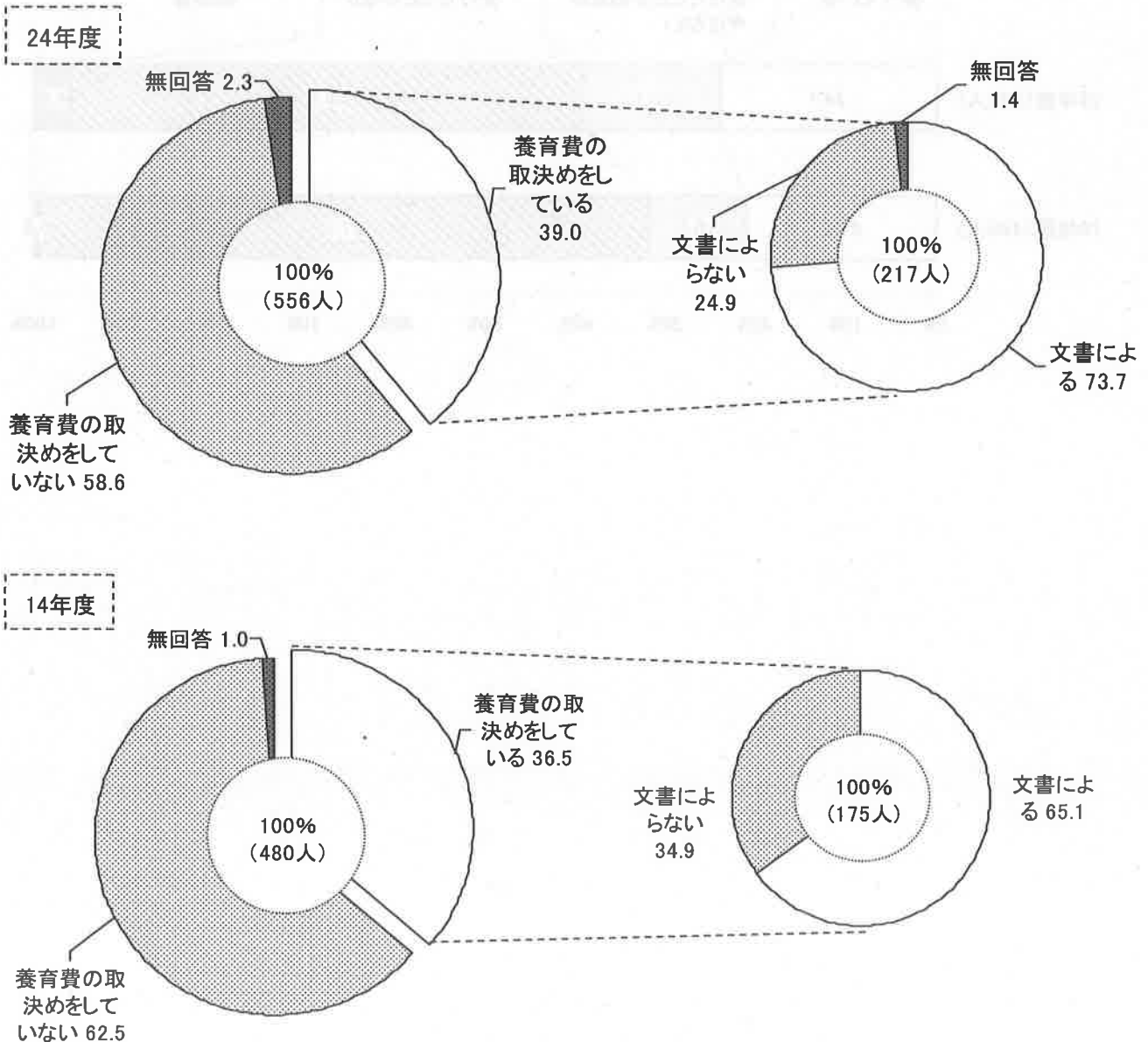


#### (4) 養育費取決め及び文書の有無

「養育費の取決めをしている」割合は約4割

離婚した相手と養育費の取決めをしているか聞いたところ、「養育費の取決めをしている」割合は39.0%で、14年度調査(36.5%)に比べて2.5ポイント増加している。

さらに「養育費の取決めをしている」人(217人)に、取決めは文書によるか聞いたところ、「文書による」の割合は73.7%で、14年度調査(65.1%)に比べて8.6ポイント増加している。

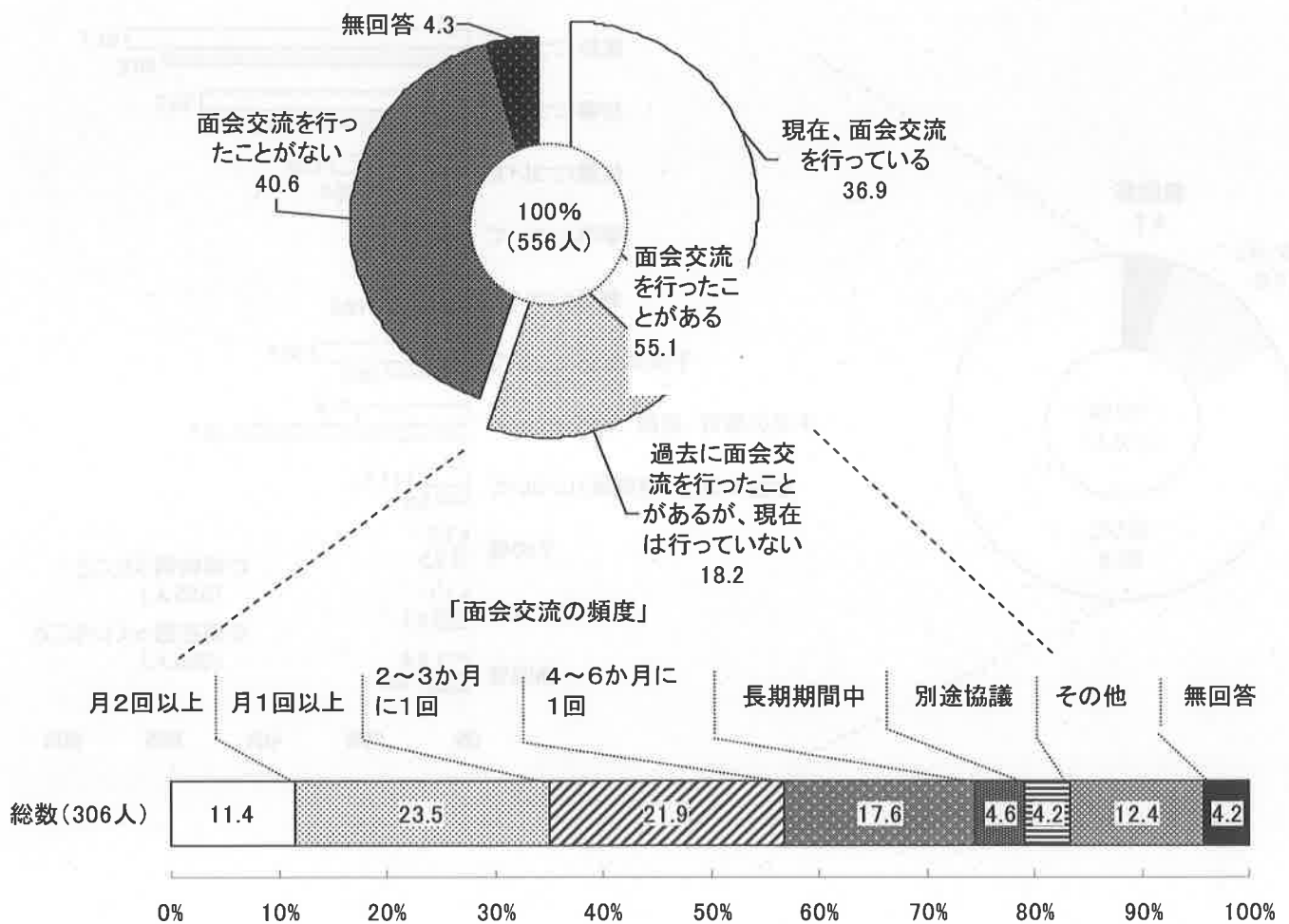


## (6) 面会交流の有無とその頻度

「面会交流を行ったことがない」の割合が約4割

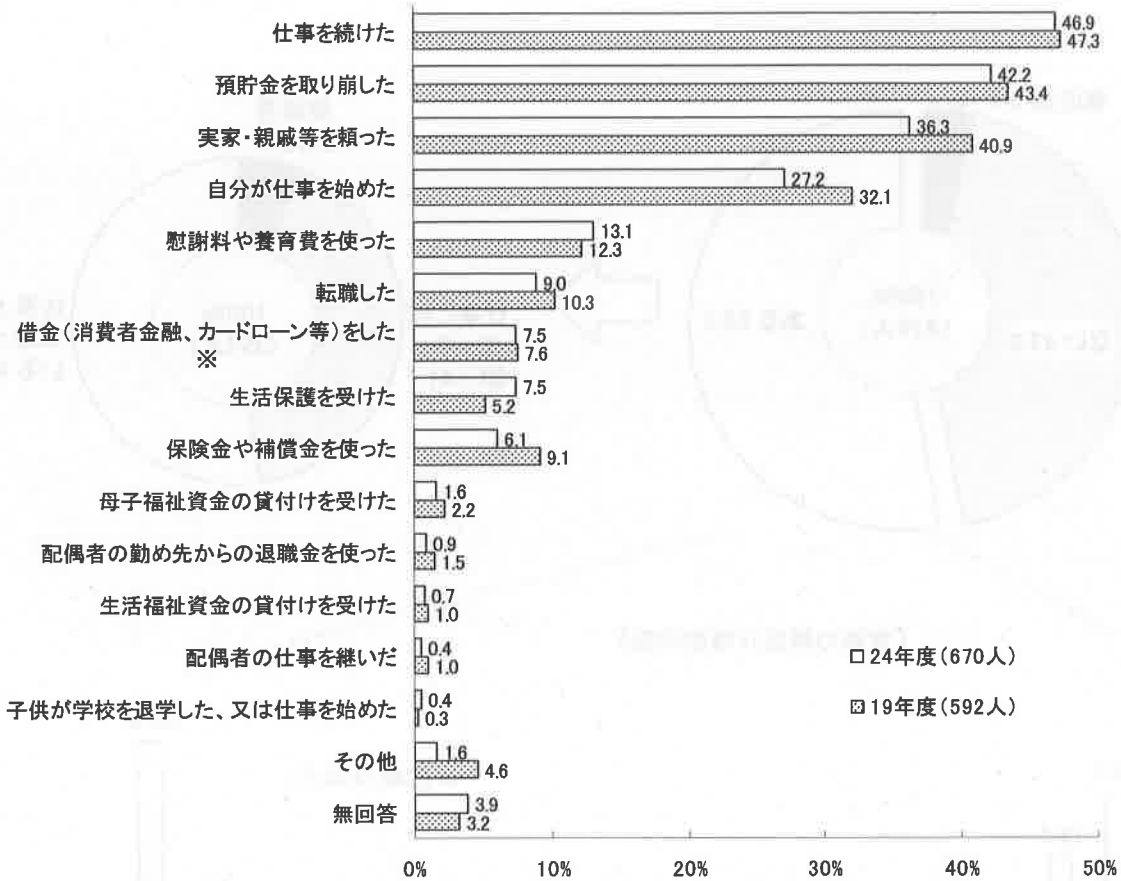
ひとり親になった理由が「離婚」「非婚・未婚」である人（556人）に、面会交流を実施しているか聞いたところ、「面会交流を行ったことがない」の割合40.6%と、約4割となっている。

さらに「面会交流を行ったことがある」人（306人）にその頻度を聞いたところ、「月1回以上」の割合が最も高く23.5%、次いで「2～3か月に1回」（21.9%）となっている。



### (8) ひとり親になった当時暮らしを立てる上で行ったこと〔複数回答〕

ひとり親になった当時、暮らしを立てる上でどうしたか聞いたところ、「仕事を続けた」の割合が最も高く46.9%、次いで「預貯金を取り崩した」(42.2%)となっている。

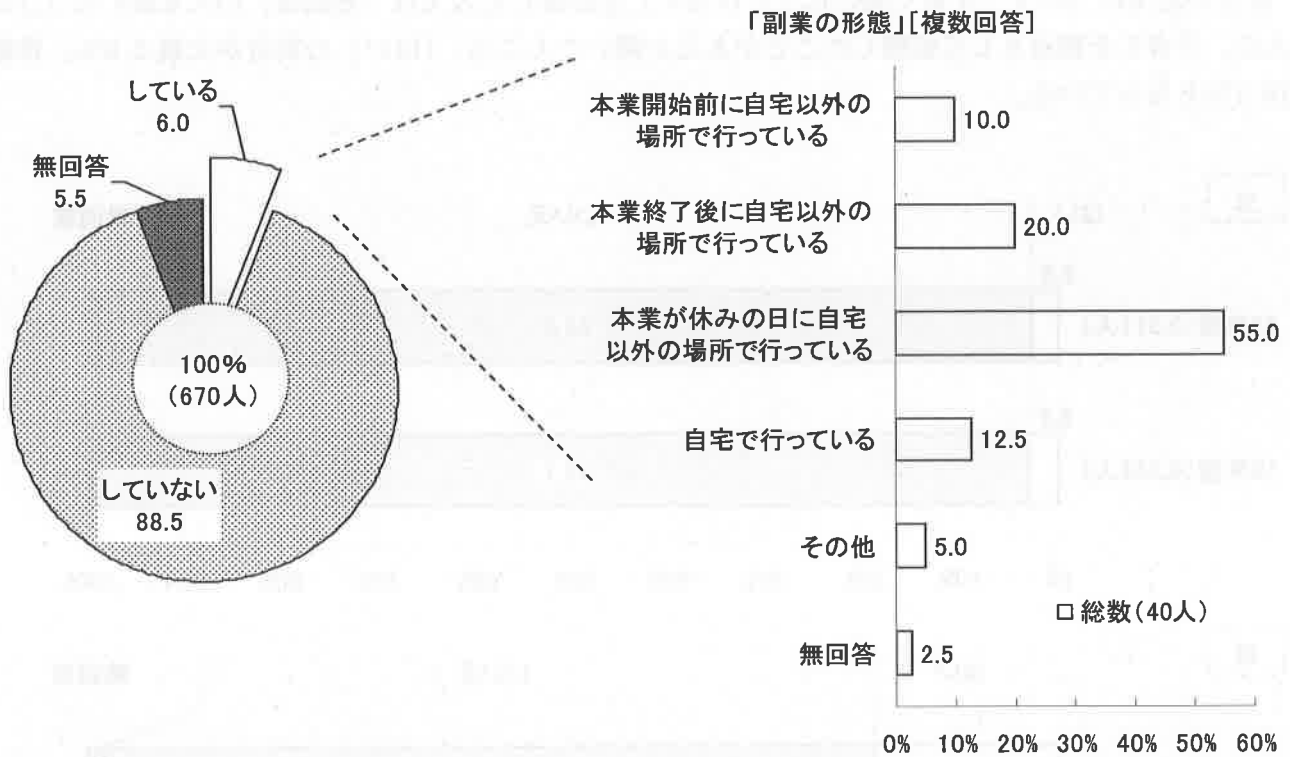


(注)19年度調査では、※は「借金(サラ金、カードローン等)をした」としていた。

### (10) 副業の有無及びその形態〔複数回答〕

現在主な仕事以外に副業をしているか聞いたところ、副業を「している」と回答した人の割合は6.0%となっている。

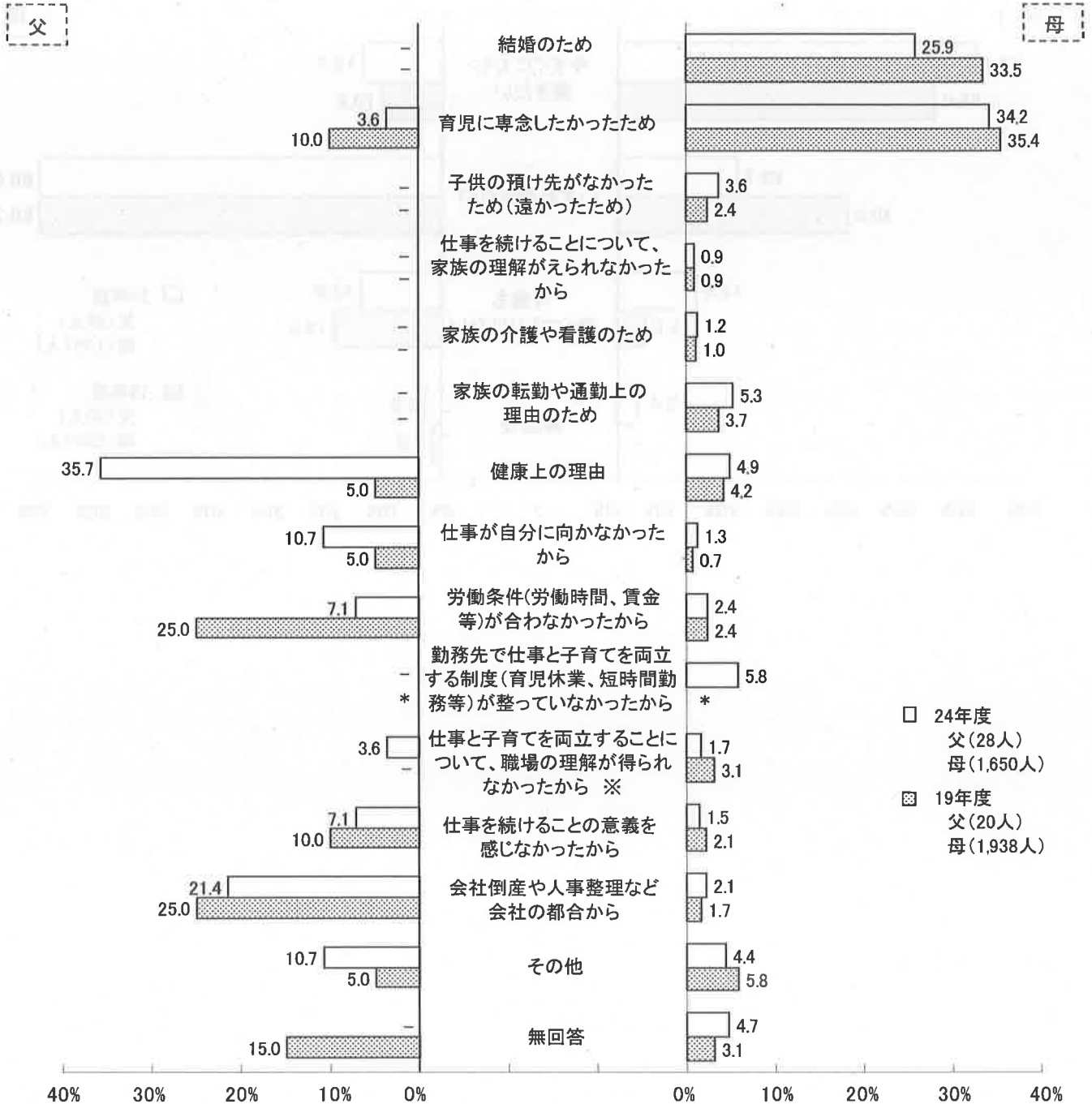
さらに、副業を「している」人(40人)にどのような形態で行っているか聞いたところ、「本業が休みの日に自宅以外の場所で行っている」の割合が55.0%と最も高くなっている。



## (2) 仕事をやめた理由

母親が仕事をやめた理由は、「育児に専念したかったため」の割合が最も高い

就労状況について「以前は働いていた」と回答した人(1,678人)に仕事をやめた理由を聞いたところ、母親は「育児に専念したかったため」の割合が最も高く34.2%、次いで「結婚のため」(25.9%)となっている。



(注1) 19年度調査では、※は「子育てについて職場の理解が得られなかったため」としていた。

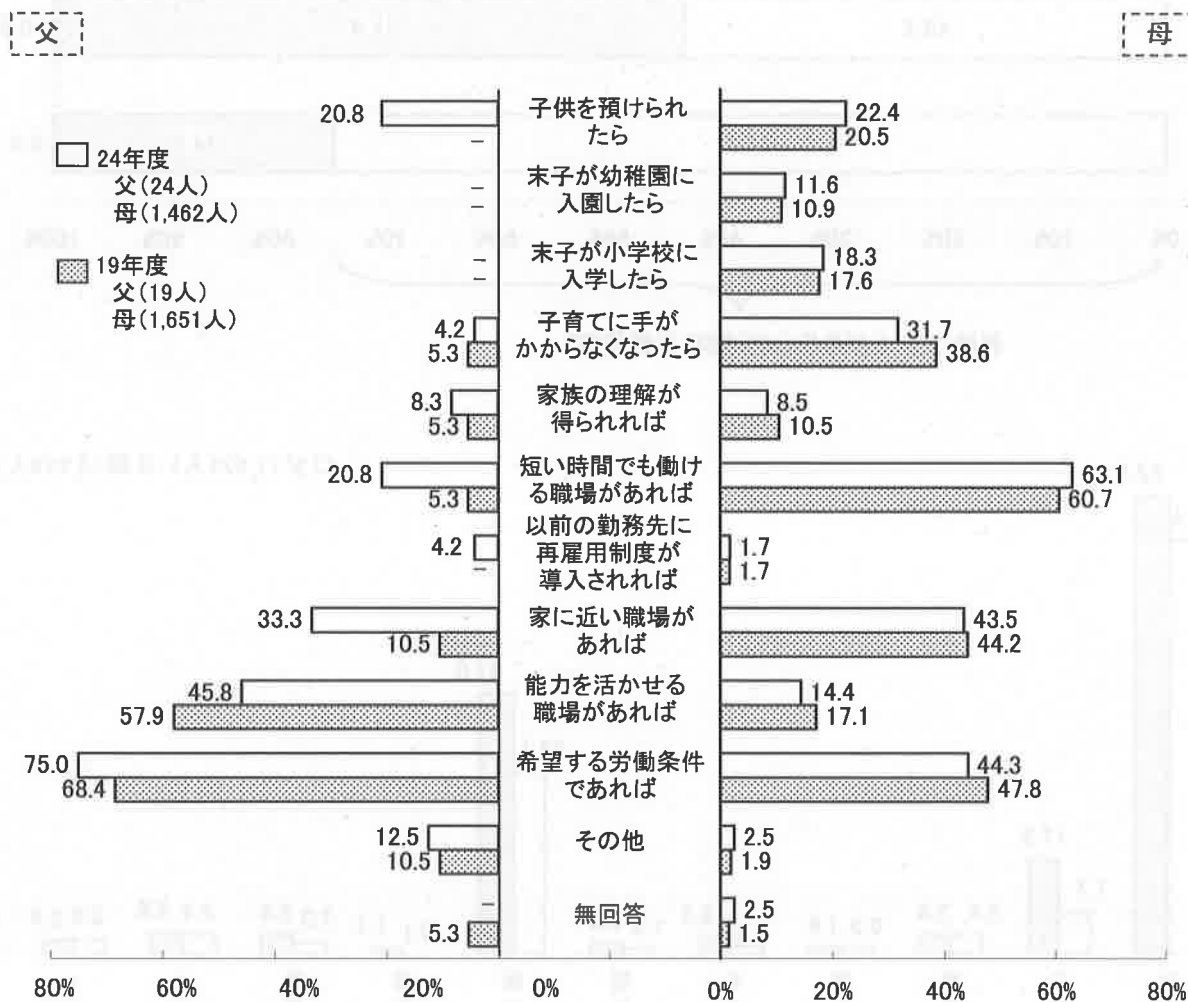
(注2) \* は、前回調査時に選択肢がなかったもの。



## ② 今後働くための条件〔複数回答〕

母親が今後働くための条件で最も高いのは、「短い時間でも働ける職場があれば」で6割超

今後の就労希望について、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した人（1,486人）に、どのような条件が満たされれば働くことができると思うか聞いたところ、母親は「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高く63.1%となっている。

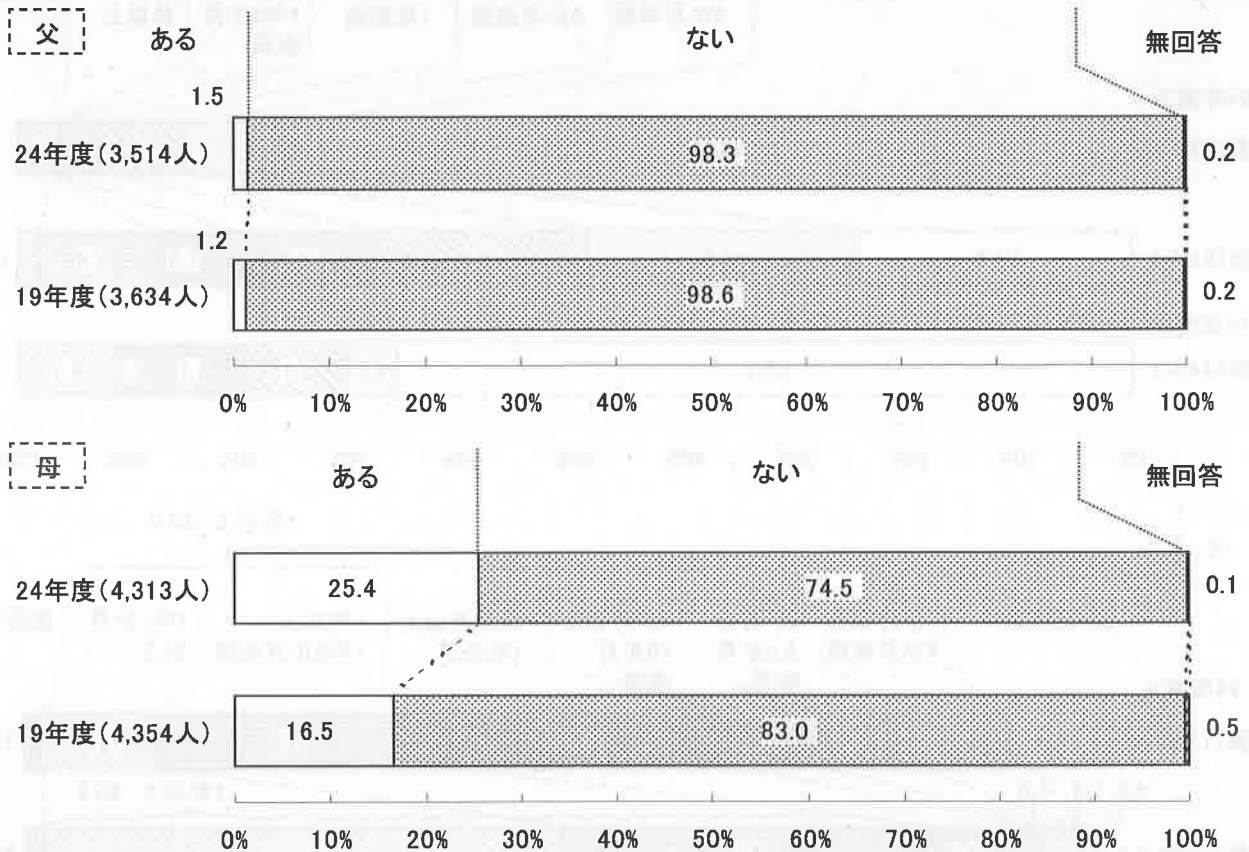


### 3 育児休業制度

#### (1) 育児休業制度の利用の有無

育児休業制度を利用したことが「ある」割合は、父親 1.5%、母親 25.4%と、19 年度調査から増加している

育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合が父親 1.5%、母親 25.4%と、19 年度調査（父親 1.2%、母親 16.5%）に比べてそれぞれ 0.3 ポイント、8.9 ポイント増加している。

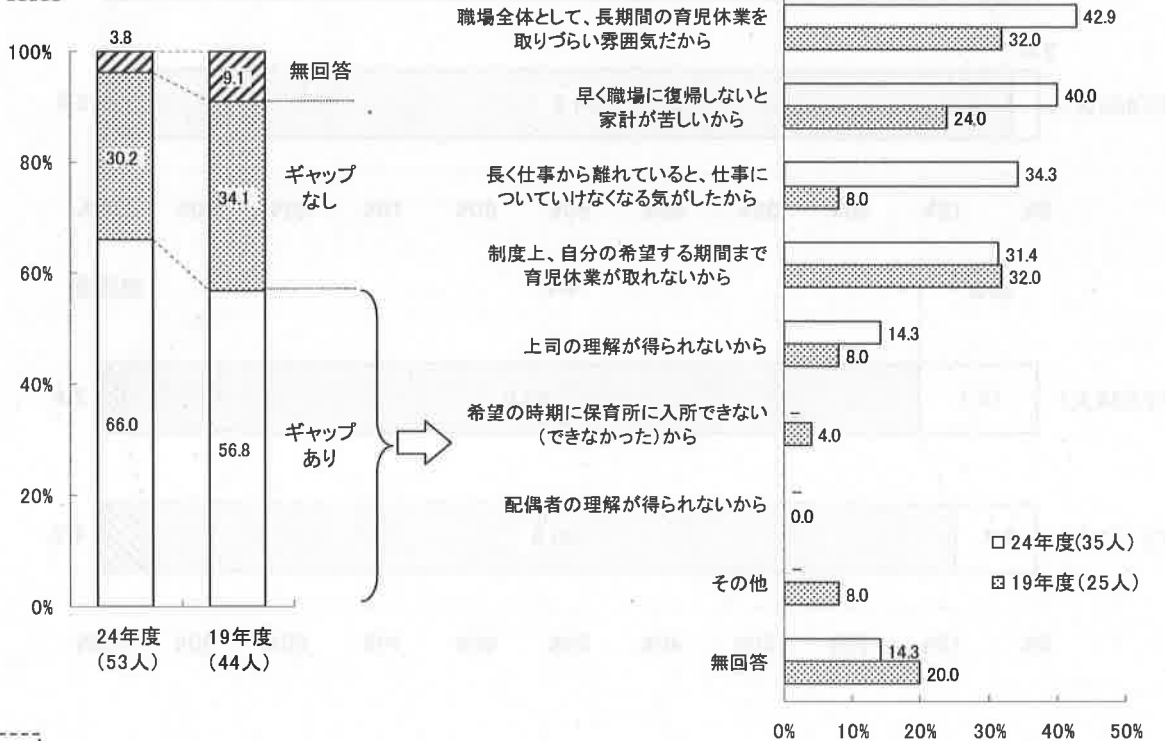


### (3) 育児休業の取得期間の理想と現実のギャップとその理由〔複数回答〕

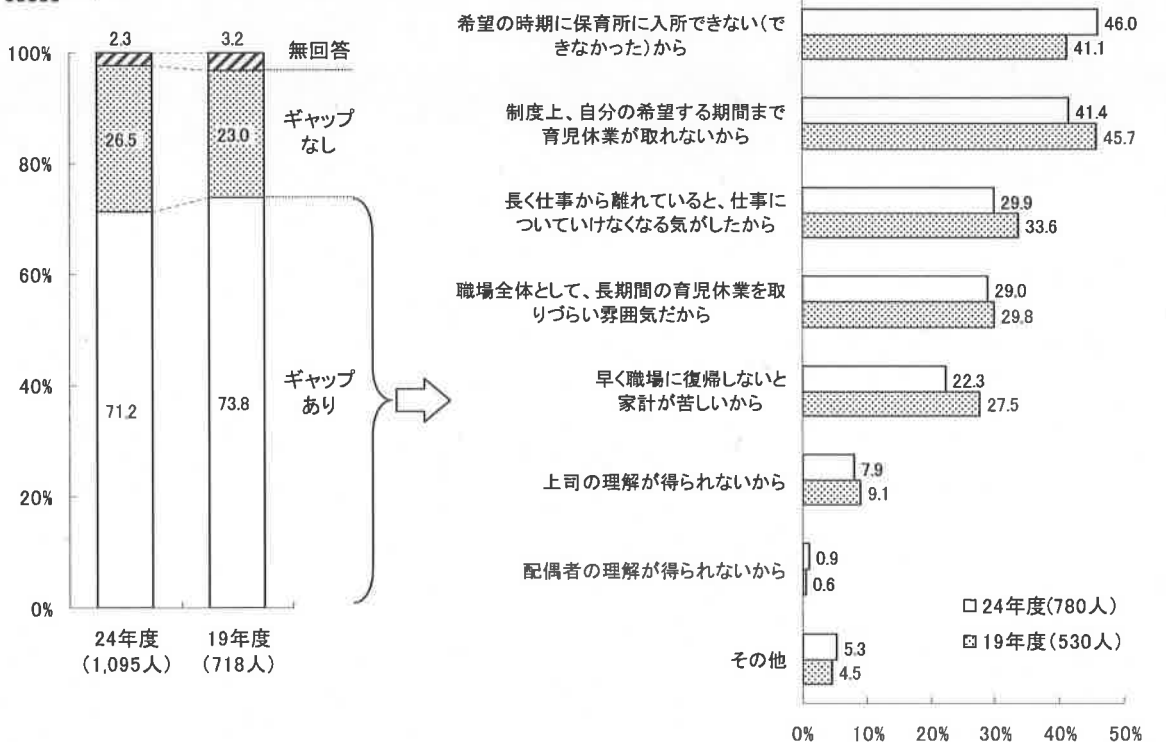
母親は「希望の時期に保育所に入所できない(できなかった)から」の割合が最も高く 46.0%

育児休業を実際に取得した期間と自分が取りたいと思う期間に差があった人(815人)に、その理由を聞いたところ、父親は「職場全体が長期間の育児休業を取りづらい雰囲気だから」の割合が42.9%と最も高くなっている。一方、母親は「希望の時期に保育所に入所できない(できなかった)から」の割合が46.0%と最も高くなっている。

父



母

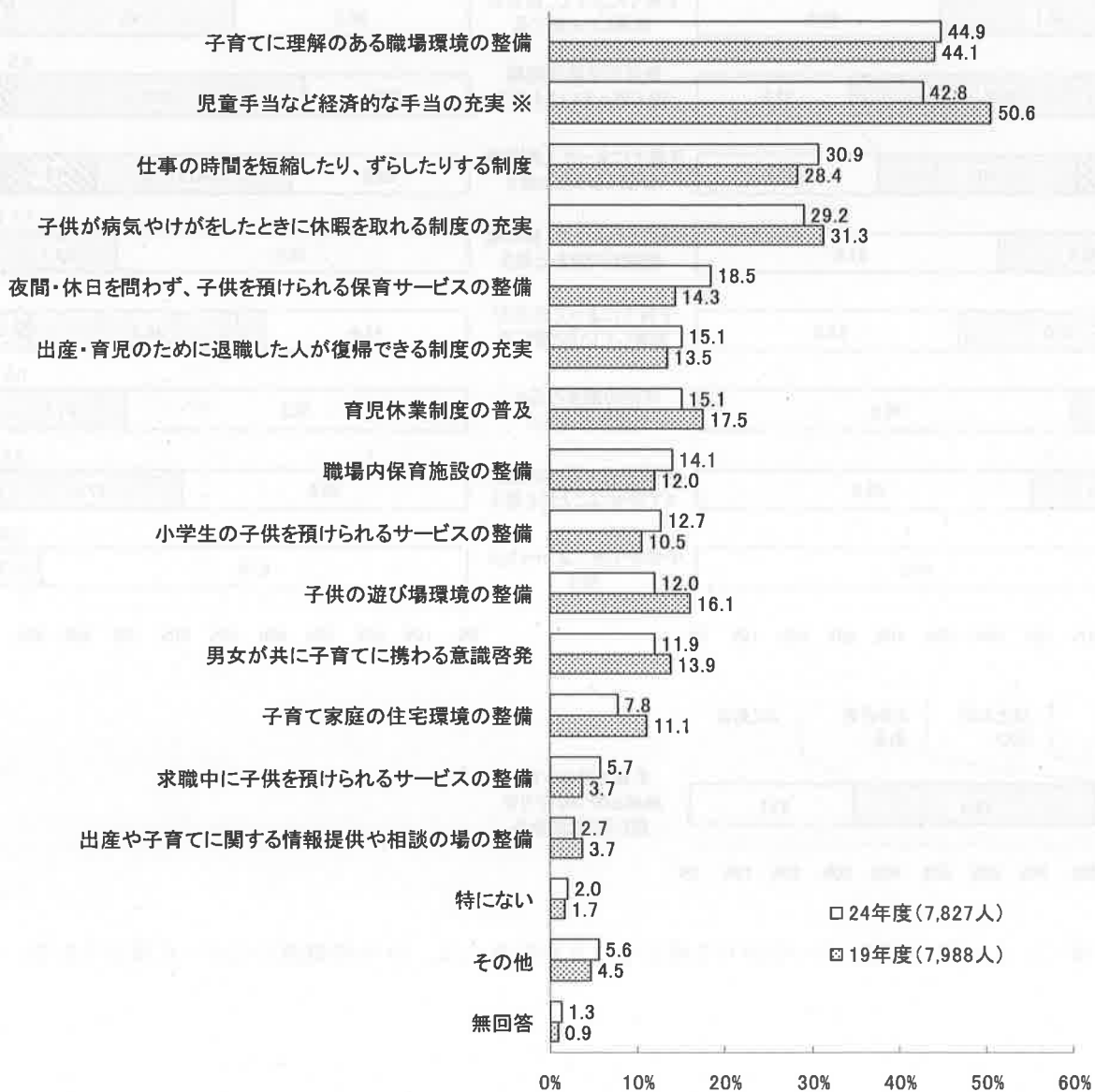


## 5 子育てに関して感じること

### (1) 出産や子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕

「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高く4割超

出産や子育てをしやすくするためには何が必要だと思うか聞いたところ、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が最も高く44.9%、次いで「児童手当など経済的な手当の充実」が42.8%となっている。



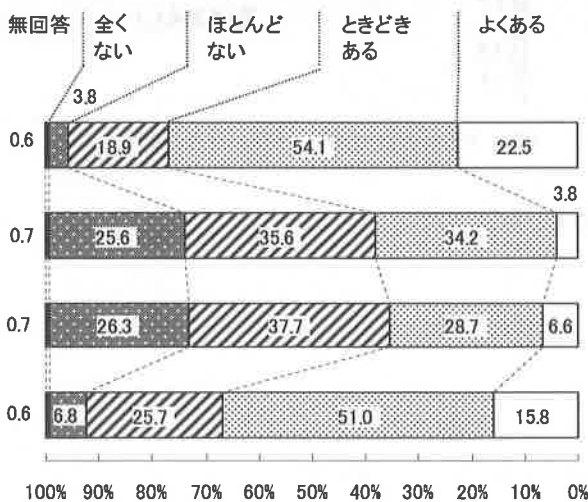
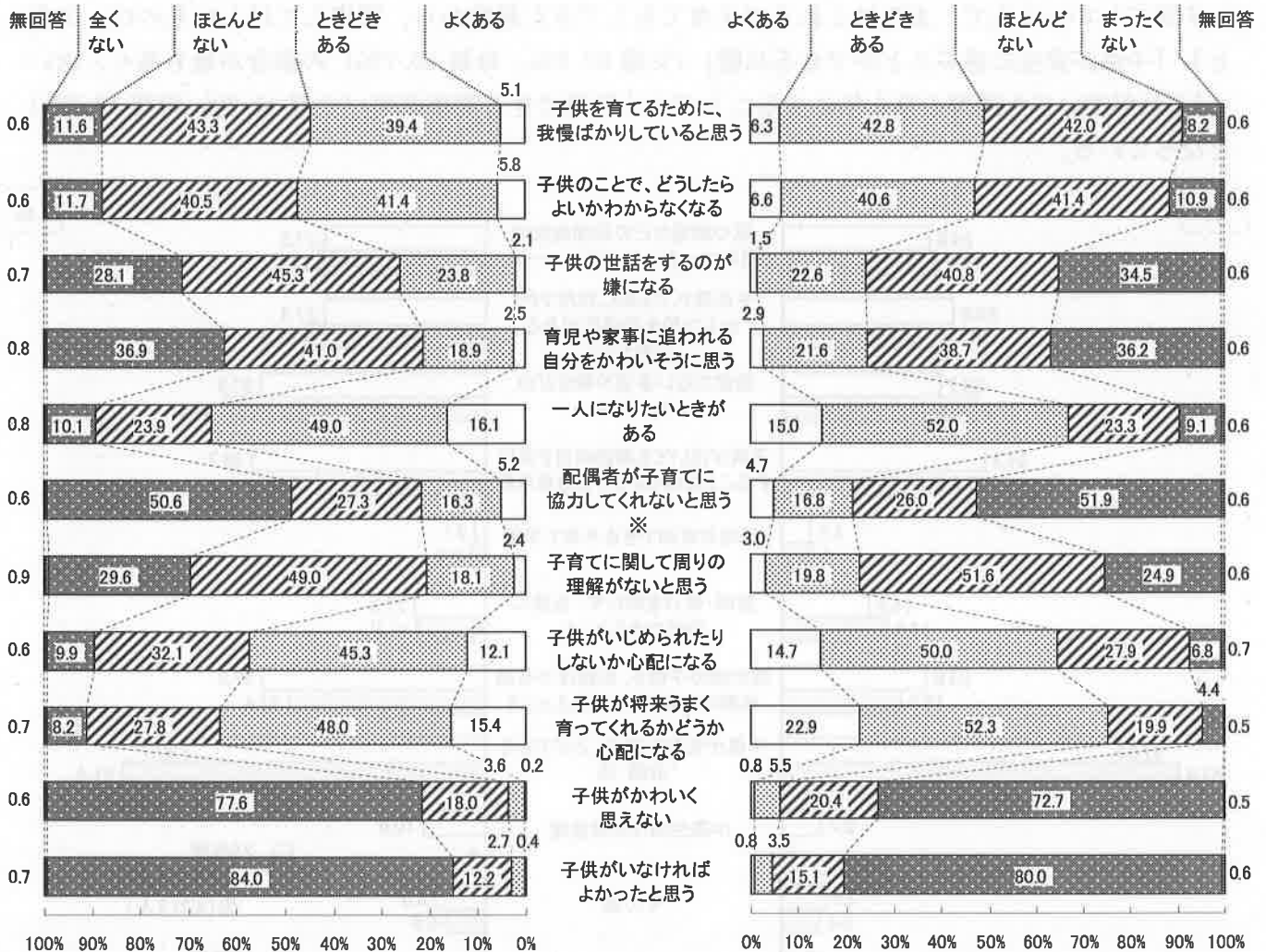
(注)19年度調査では、※は「育児手当など経済的な手当の充実」としていた。

### (3) 子育てをしていて日ごろ感じることー負担に感じること

子育てについて日ごろ感じることを聞いたところ、「子供が将来うまく育ってくれるかどうか心配になる」について「全くない」と「ほとんどない」を合わせた割合が36.0%と、19年度調査(24.3%)に比べて11.7ポイント増加している。

24年度(7,827人)

19年度(7,988人)



(注1) 「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としているため、総数(24年度=7,166人、19年度=7,402人)である。

(注2) 「子育てでイライラすることがある」以下については、19年度調査になかった項目である。

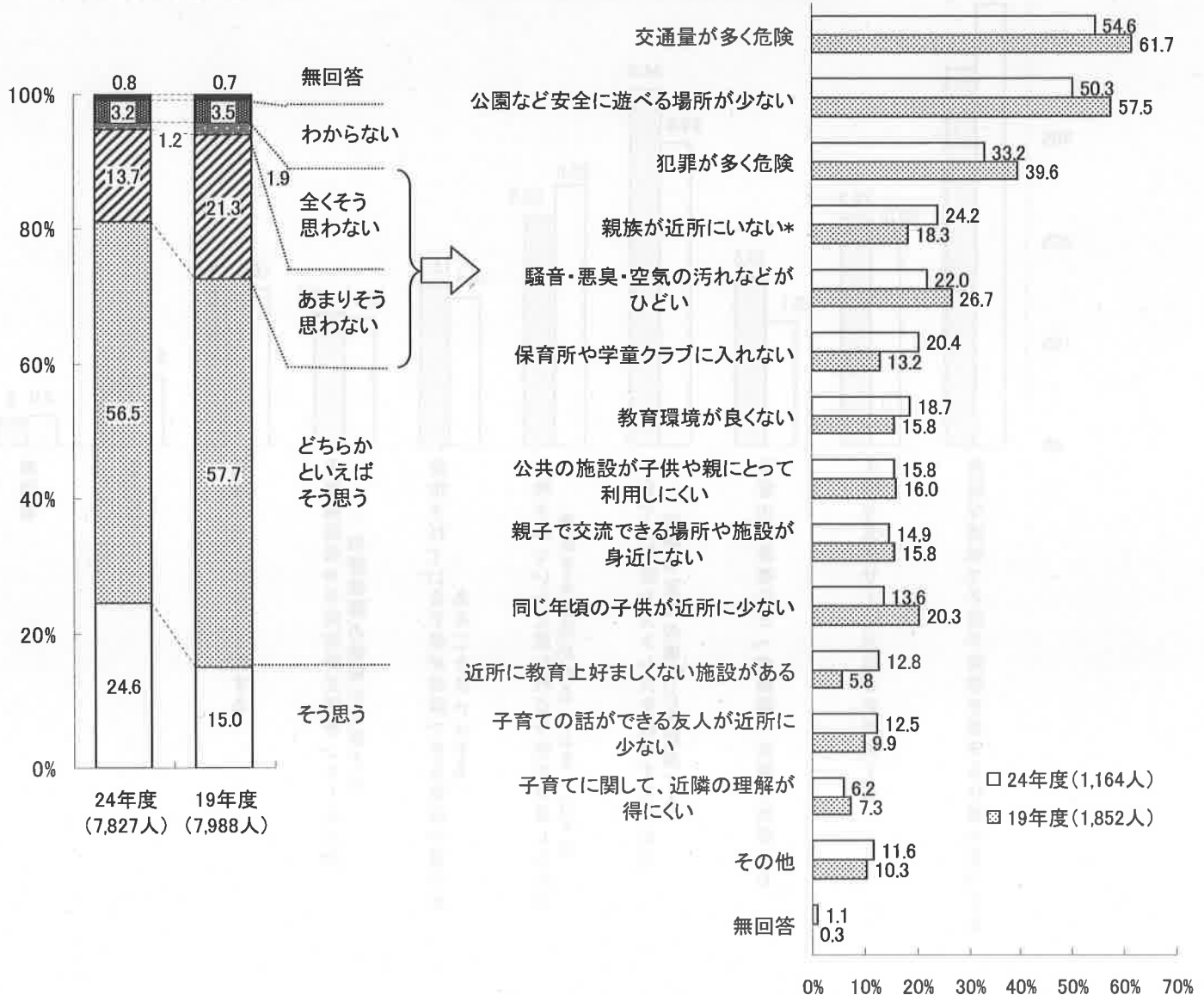
## (2) 安心して子育てできる地域かどうかと安心して子育てできない理由〔複数回答〕

自分の住んでいる地域が安心して子育てできない理由は「交通量が多く危険」の割合が最も高い

自分の住んでいる地域が安心して子育てできる地域かどうか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」の割合が 56.5% で最も高くなっている。一方、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」を合わせた割合は 14.9% となっている。

さらに「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」と答えた人 (1,164 人) にその理由を聞いたところ、「交通量が多く危険」の割合が最も高く 54.6%、次いで「公園など安全に遊べる場所が少ない」(50.3%) となっている。

「自分の住んでいる地域が安心できない(全くそう思わない+あまりそう思わない)と答えた人の理由」〔複数回答〕



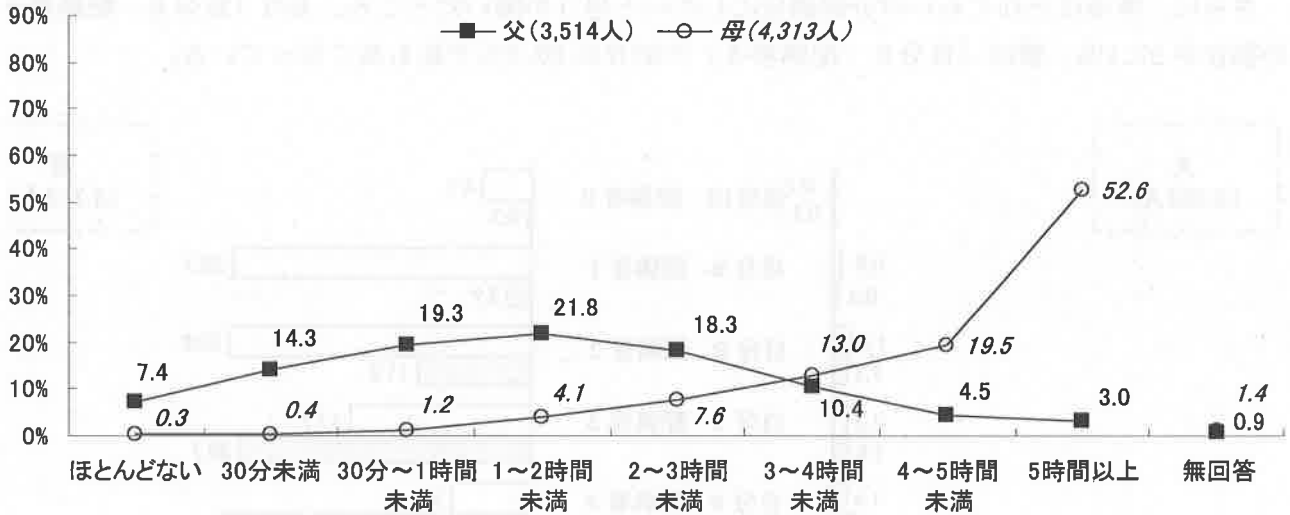
(注) 19年度調査では、「親類が近所にいない」としていた。

## 7 家族のコミュニケーションと夫婦の家事・育児分担

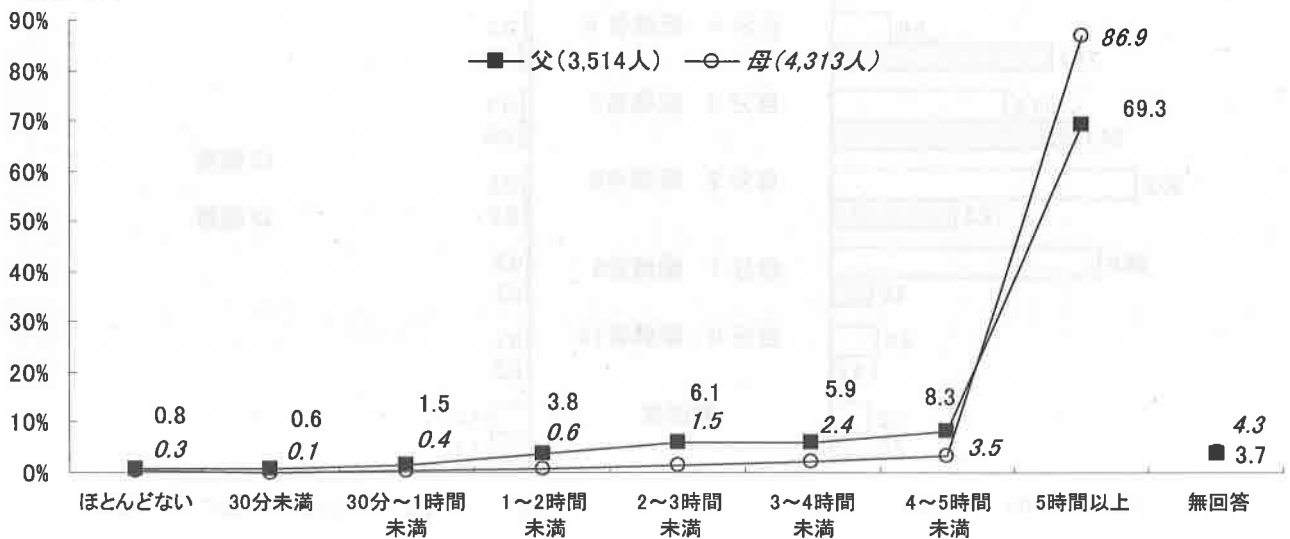
### (1) 子供と一緒に過ごす時間—平日と休日

子供と一緒に過ごす時間について聞いたところ、平日の割合は、父親は「1～2時間未満」(21.8%)、母親は「5時間以上」(52.6%)で最も高くなっている。一方で休日の割合は、父母とも「5時間以上」(父親69.3%、母親86.9%)で最も高くなっている。

平日



休日



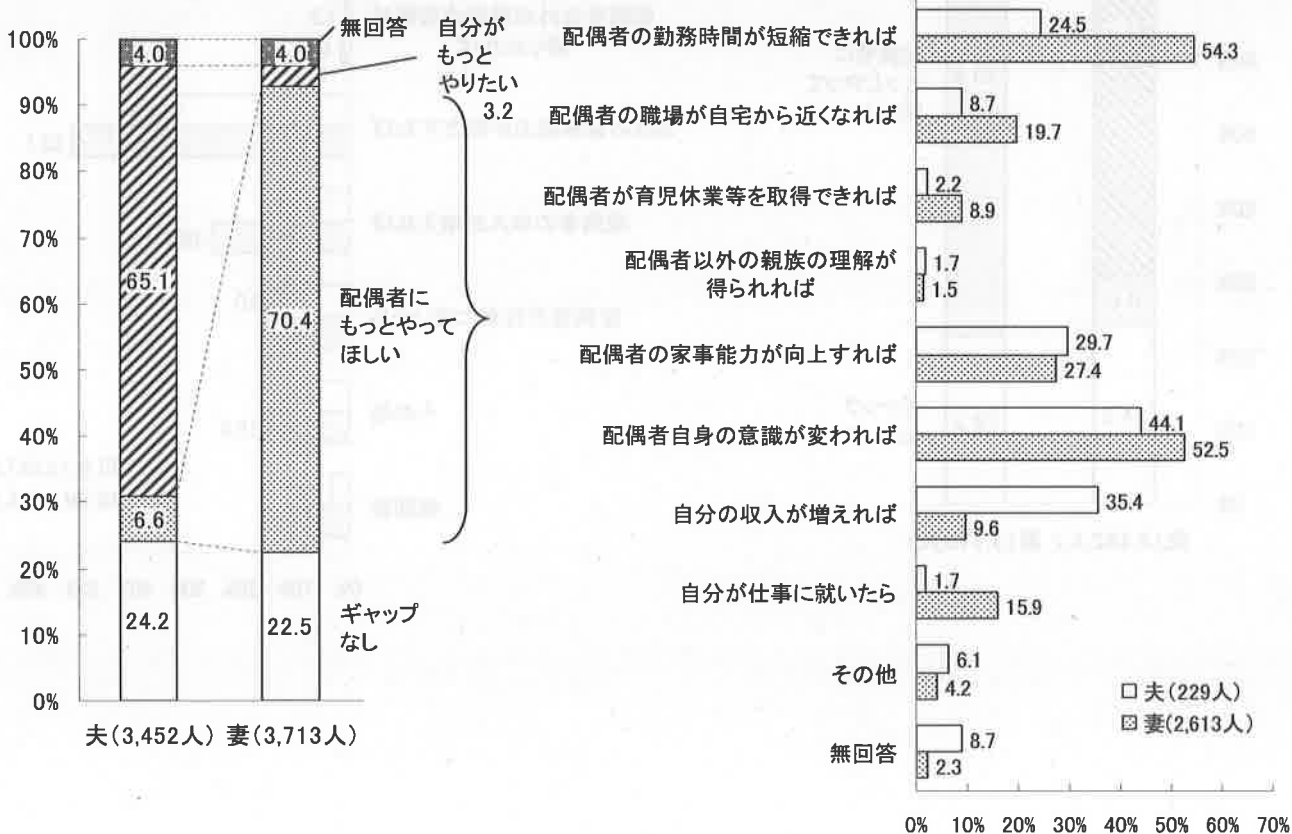
### (3) 理想と現実のギャップの有無と理想に近づけるための条件〔複数回答〕

「家事・育児を自分がもっとやりたい」と思っている夫の割合は 65.1%、「家事・育児を夫にもっとやってほしい」と思っている妻の割合は 70.4%

夫婦の家事・育児の分担割合について、「自分がもっとやりたい」と思っている夫の割合が 65.1%、「配偶者にもっとやってほしい」と思っている妻の割合は 70.4%となっている。

配偶者にもっと家事・育児をやってほしいと思っている人に、どうすればもっとやってもらえると思うか聞いたところ、夫は「配偶者自身の意識が変われば」の割合が 44.1%、妻は「配偶者の勤務時間が短縮できれば」の割合が 54.3%とそれぞれ最も高くなっている。

「配偶者にもっと家事・育児をやってほしいと思っている夫(229人)、妻(2,613人)の理想に近づけるための条件」





## 8 東京の子供・子育て支援

東京都の子供・子育て施策が充実しているかについて聞いたところ、「小児・母子医療体制の整備」について「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は58.6%となっている。一方で、「家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進」について「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は54.6%となっている。

